

船橋の町誌・市史について



船橋の歴史の中で複数の町誌・市史が作られました。船橋の歴史を記録している基本資料である町誌・市史について説明します。

『船橋町誌』

(『船橋市史 史料編5巻』に収載)

原本は同一筆跡の手書き。大正5年12月16日から12月30日の間に脱稿したと考えられる。表紙に船橋高等尋常小学校編とあるが編者は不明。

『船橋町誌 上・下』

(『船橋市史 史料編5巻』に収載)

原本は数人の手書き。文中の最新年月日から昭和9年4月以降に脱稿したと考えられる。表紙に「船橋国民学校」「船橋尋常高等小学校」とあるが編著者は不詳。

『船橋町誌』

船橋町誌編纂委員会／編 1937年 (青史社により1981年に復刻刊行)

昭和8年から12年当時の船橋町の状況がわかる。船橋市成立前の船橋町の記述に限られるため、現在の市域の船橋町以外の地域については『葛飾町案内』『塚田村郷土誌』『塚田村誌』『八栄村誌』『法典村誌』『二宮郷土読本』『豊富村誌』『千葉県千葉郡豊富村誌』(すべて『船橋市史 史料編5巻』に収載)を調べる必要がある。

『船橋市史 前篇』

船橋市／編 船橋市 1959年

太古から明治維新にいたるまでの事を記載。江戸時代の村単位で書かれているため、ある地区の江戸時代の村名がわかれば、太古から明治までの歴史と寺院、神社のことがわかる。後編は作られていない。

『船橋市史 現代篇上巻』

船橋市史編さん委員会／編 船橋市 1965年

明治からの昭和30年代までの市史。

『船橋市史』

船橋市史編さん委員会／編 船橋市 1983~2001年

2冊の通史編(「原始・古代・中世編」と「近世編」)、民俗文化財編、11冊の史料編で構成されている。古代から現代にいたる船橋についての歴史。史料編には通史編に使用されている主要な文書が収載されている。

『船橋市の歴史 近・現代篇』

船橋市教育委員会／編 船橋市 1999年

『船橋市史』通史編の続き。